

會 告 日本鐵鋼協會

日本標準規格 私費印刷分讓の件

1. 内容、形式、寸法共 商工省御編纂 のものと同一なり。
2. 代金は 1 枚に付き 金壹錢也とす。
但し郵税は實費。第四種郵便にて 17 枚迄で 2 錢 18 以上 36 枚迄で 4 錢 其れ以上は 20 枚内毎 2 錢増しのこと。

本會の發行 日本標準規格目次

規格類別番號	類別番號	名稱	決定年月日 大正	商工省告示番號	右同告示年月日 大正	枚數	規格類別番號	類別番號	名稱	決定年月日 大正	商工省告示番號	右同告示年月日 昭和	枚數
第1號	B1	金属材料抗張試驗片	11.10.19	43	14.3.5	2	40	H1	銅板	15.6.23	30	2.10.22	3
2	B2	針金の徑、薄板の厚及其の稱呼	〃	44	〃	1	41	H2	黃銅板	〃	31	〃	3
3	Z1	寸法標準數	13.3.27	17	14.9.18	1	42	H3	アルミニウム板	〃	32	〃	3
4	Z2	等比標準數	〃	〃	〃	1	43	H4	銅棒	〃	33	〃	3
5	G1	鍛鋼品	〃	9	〃	4	44	H5	ネーバル黃銅棒	〃	34	〃	3
6	G2	鑄鋼品	〃	10	〃	4	45	H6	高力黃銅棒	〃	35	〃	3
7	G3	鑄物用銑鐵	〃	11	〃	1	46	H7	火延黃銅棒	〃	36	〃	3
15	G4	水管罐用繼目無鋼管	14.3.27	18	15.10.26	2	47	H8	挽物用黃銅棒	〃	37	〃	2
16	G5	圓罐用繼目無鋼管	〃	19	〃	3	48	H9	繼目無鋼管	〃	38	〃	3
17	G6	機關車罐用繼目無鋼管	〃	20	〃	2	49	H10	機關車罐用繼目無黃銅管	〃	39	〃	2
18	G7	一般用繼目無鋼管	〃	21	〃	3	50	H11	復水器用繼目無黃銅管	〃	40	〃	2
19	G8	瓦斯管	〃	22	〃	1	51	H12	復水器バツキング抑用繼目無黃銅管	〃	41	〃	1
20	G9	構造(橋梁、建築其他)用壓延鋼材	〃	23	〃	6	52	H13	一般用繼目無黃銅管	〃	42	〃	2
21	G10	造船用壓延鋼材	〃	24	〃	5	53	H14	銅地金	〃	43	〃	2
22	G11	罐用壓延鋼材	〃	25	〃	6	54	K1	銅地金分析方法	〃	18	昭和 3.5.23	12
23	G12	鐵道車輛用壓延鋼材	〃	26	〃	6	55	K2	鐵及鋼炭素分析方法	2.10.3	20	4.5.13	5
24	G13	壓延鋼材の寸法及重量の公差	〃	27	〃	2	56	K3	鐵及鋼珪素分析方法	〃	〃	〃	5
25	G14	標準棒鋼	昭和 2.10.3	23	昭和 4.5.13	4	77	G18	罐用繼目無鋼管の寸法	3.10.18	32	5.6.2	1
26	G15	標準形鋼	〃	29	〃	16	78	G19	一般用繼目無鋼管の寸法	〃	23	〃	2
36	B8	管用れど	大正 15.6.23	26	昭和 2.10.22	〃	79	G20	可鍛鑄鐵品	〃	24	〃	3
37	B9	管接手れど	〃	27	〃	〃	80	G21	水道用鑄鐵管	〃	25	〃	4
38	G16	瓦斯管の寸法	〃	28	〃	1	81	H15	水道用鉛管	〃	26	〃	3
39	G17	銑	〃	29	〃	〃	82	H16	亞鉛地金	〃	27	〃	2

以上の外設計上の参考及製作規格等本會に關係するも多々あれども追ふて發行するものとす。

實物寸法 159mm 一四寸五分五厘

JES	日本標準規格	第55号
鐵及鋼炭素分析方法		類別 K2
		頁 1

第一章 總則

第一條 本規格一鐵及鋼ノ炭素分析方法ニ之ヲ適用ス

第二條 鐵及鋼炭素分析方法ニ次ノ三種トス

一、炭素量及鐵炭素分析方法

二、特殊炭素分析方法

三、合金鐵炭素分析方法

第二章 炭素量及鐵炭素分析方法

第三條 本條ノ炭素分析方法ニ炭素、遊離炭素及化合炭素ノ定量法トス

第四條 全炭素定量法ニ次ノ通りトス

一、要旨

試料ヲ乾式燃焼法ニ依リ直接ニ炭素ノ気流中ニ於テ熱シテ炭素ヲ完全ニ酸化セシメテ炭素ヲ為シ之ヲ曹達石炭又ハ曹達石炭ニ吸收セシメ其ノ増量ヨリ炭素ヲ定量ス

二、装置 (附圖参照)

(一) 炭素瓦斯清淨装置

本装置ハ瓦斯清淨器 (a) ニ貯ヘタル炭素瓦斯ヲ其ノ中ニ含有スル炭素瓦斯又ハ有機性瓦斯等ヲ除去シ且清淨炭素ヲ為シ「クロム」酸和硫酸 (硫酸比重量 1-02) フスレタル洗瓶 (b)、曹達石炭又ハ曹達石炭ヲ填メタル管 (c) 及硫酸 (比重 1-04) フスレタル瓶 (d) フリテ炭素ヲ清淨セシメ

(二) 燃焼炉

燃焼炉ハ内徑約 30mm ノ管狀電氣炉 (f) 又ハ適當ノ瓦斯炉ニシテ電流又ハ瓦斯ヲ調整シ「バイロメーター」ニ依リ其ノ中央部ニ炭素試料約 10mm 一一定温度ニ保持シ得ヘキモノトス

炉ニ其ノ四端ニ約 16mm 突出シ得ヘキ長ヲ有スル内徑約 20mm ノ燃焼管 (e) フ挿入ス又ハ管中ニ挿入セラルヘキ燃焼「ポット」ノ位置ノ後方的 10mm 至リテ白金石炭、「パラジウム」石炭又ハ酸化鐵石炭ヲ填メタルモノトス

(三) 瓦斯吸收装置

本装置ハ燃焼後ヨリ出タル瓦斯ヲ吸收セシメ「クロム」酸和硫酸 (硫酸比重量 1-02) フスレタル瓶 (g)、五酸化磷 フスレタル瓶 (h) 及曹達石炭又ハ曹達石炭ヲ入ルヘキ洗瓶 (i) 2 個ニ依リ炭素ヲ定量ス

昭和二年十月三日決定 工業品規格統一調査會

會 告

會費領收報告

正會員

金四圓五拾錢也

(自昭和六年一月至同年六月)

伊勢喜之助	井上敏之助	石田四郎	今福嘉作	日本鐵線鋼索株式會社	一本木清三
石田莊太	伊藤正夫	井村竹市	石原善平	池貝鐵工所發動機部	池永雅之助
池上重德	市川茂三郎	石川重遠	石澤命知	石黒利吉	石井定一
飯島健吉	伊丹榮一郎	今井弘郷	石黒時次郎	池上龍夫	井上太一
伊藤隆吉	井上順三	乾康彦	井門文三	池田正茂	五十嵐政治
今井文平	伊藤乙次郎	石井直彦	泉量一	石尾廣一	石原克己
居城又助	井上禧之助	一色虎兒	池田千足	石原久米藏	井上高藤
岩井興太郎	池田英雄	石原富一	石河日吉	伊東久美	飯澤富次郎
石原米太郎	伊藤孝吉	今岡純一郎	飯田臺三	稻葉政助	石田富之助
石井茂吉	井口常雄	石川登善	井口庄義	池島三達	池上室庸
伊澤正宣	石渡信三郎	石原善正	今坂忍	林明	羽室武彦
盧成七	濱野長松	長谷川金三	濱田友助	橋本三彌	濱田源次
濱田清太郎	服部傳三郎	羽島金三	萩野八之助	濱住松二	秦津
林幾之助	濱田彪	橋本宇一	新村千尋	日本銀行調査局	西津
範多龍平	ハインリ、ツヒ、ゴーセンス	二階堂行健	西村小次郎	日本製鋼所	西尾
西澤公雄	日本窒素肥料株式會社延岡工場	堀市次郎	堀馬三郎	本多光太郎	堀岡利一
西山彌太郎	大屋辰造	西村秀雄	東馬三郎	東京鋼材株式會社	百々初男
西村直尙	堀切政康	保坂文藏	戶畑鑄物株式會社	東京鋼鐵製作所	縫野敏文
銅金義一	東京製鋼株式會社川崎工場	東海電極株式會社名古屋工場	小幡睿治	大岩寅吉	尾花正篤
友田一太郎	戶波親平	小川芳樹	越智誠二	大貫富藏	大村正源
大倉商事株式會社	大森治一郎	小方嘉一郎	岡虎太郎	大屋正吉	大石源治
大野宗平	大森偉一郎	尾形次郎	小田切延壽	太田西松	大阪鐵商同業組合
大日方一司	大出善一	尾崎眞一	岡敬藏	大阪鐵鋼製造會社	東京工場
大屋敷正平	小田清吉	岡山貞吉	大久保立吉	小川清一	岡島奈良藏
緒方正恒	小奥村千武	渡邊義介	渡邊讓吉	渡邊一新	渡邊俊修
小倉正太郎	渡邊相進	渡瀨常吾	渡邊惠弘	渡邊一勤	加藤山齊
渡邊行太郎	河相榮匡	川本良篤	嘉本忠兵衛	川部孫四郎	川上義弘
川口正孝	加河合壯吉	川村吟次郎	甲藤新密	金子正雄	川島信安
片山源三	高笠原寬美	片山謹一郎	加藤恭平	加藤正潔	川崎舍恒
河合盛雄	高笠原寬美	片山謹一郎	加藤恭平	加藤正潔	川崎舍恒
河村千吉	高笠原寬美	片山謹一郎	加藤恭平	加藤正潔	川崎舍恒
加來三千彦	高笠原寬美	片山謹一郎	加藤恭平	加藤正潔	川崎舍恒
神谷豐太郎	高笠原寬美	片山謹一郎	加藤恭平	加藤正潔	川崎舍恒
川崎造船所製鐵工場	吉田幸吉	橫山鐵之助	吉田豐美	高田友吉	高田憲和
吉田幸吉	吉田直輔	高洲清七	吉田代友	高田梨見	高田玉置
吉森信雄	吉田晴次郎	高瀧高木	高田友吉	高田梨見	高田玉置
吉川雄輔	吉田友次郎	高瀧高木	高田友吉	高田梨見	高田玉置
田宮嘉右衛門	竹場露國	高瀧高木	高田友吉	高田梨見	高田玉置
竹內保孝	高村國策	高瀧高木	高田友吉	高田梨見	高田玉置
立花好孝	高村國策	高瀧高木	高田友吉	高田梨見	高田玉置
高砂鐵工株式會社	鋼帶工場	高瀧高木	高田友吉	高田梨見	高田玉置

根永中中永村上浦葛久山山山山前松福藤小近小小遠寺足赤齋里佐菊木滿柴重鹽清平森茂鈴鈴河高金加道德	本富前野岡岡田田目慈下本本本本前岡田井井森藤小林內立川藤見木島田川元正弘爲源盛正忠美勝達	文三福武元靜彥義維常惚尙武光武太貞鐵又八寅晶正次幸貞守勝忱十右衛門吉永正弘木野山尾賀美靜達	耶雄夫市雄武郎八治義藏男夫次眞造三一信耶雄一登環次造康哉靖眞治三寬義助雄夫	中灘仲中中村上野熊久藪山山柳松眞松前古深小江手安澤酒菊湯南白倉津野關口杉川甲河堀藤富	尾谷村岡野本谷田田澤井野本井谷森場藤林原島部藤井井地城倉倉野口田斐添貫堂川	富士秀喜德光周藤俊光幸德六保權富貞達浩虎三永恒寬浩正敏眞繁昌三重榮定浪義貫直	雄博次勇美登市雄五郎實耶耶耶耶作光介雄耶介義一溫介男熹勝男助耶候耶一雄夫彌雄二宗正	永西島野村田中田原口村本下田喜谷井藤小後小江遠藤青阿有佐佐澤龜結三白芝嶋平平茂清鈴杉川加垣穗戶島	末寬道正富哲義賢保秀信三弘三勇義正一治尙一松次雄衛耶治信亮介實吉明茂壽三市吉三雄四耶治雄	巖人文義雄巖三詔二生夫武新公榮耶耶耶弘三勇義正一治尙一松次雄衛耶治信亮介實吉明茂壽三市吉三雄四耶治雄	成瀨川中長棟居上田澤本川山山八山樹松前藤藤後小遠江朝相酒坂佐坂木目川石川世瀨利桂松藤岡小江永	澄重保清太敏正一周忠富藤正小太道元信忠眞雅露浩一佐兔正富音松幾俊將國惣之一千代輝靜小鐵良	三明彦盛耶雄德郁一彦夫助已秀耶徹滋三二男亨一耶晴三爾耶敏市夫耶吉斌尾次雄一雄之助雄輝男又男三	野黑田房金照秀雄兼直欽正政伊勢三覺嘉彦勇丑有圓壽貞勝次不義佐治諄善敬金壽九月喜宮元孝義行健	夫耶彰吉彌造雄二夫政爾治信男耶耶市耶次治一藏吉吉耶昌輔勝雄吾廉善次耶弘一吉要雄久雄作治明雄吉	中永名永村有宇日栗山山山山柳山崎益松丸福藤古近小遠寺秋新作佐澤清喜宮下河鹽志日守盛鈴鈴杉川加川富戶	野兒耶田井勸川田下田本村田下崎森倉山丸井賀藤小山藤井元井井田原津崎見村野屋盛口木山野藤崎山田	康行重光宗滿眞英正吉富榮眞芳治定喜光嶽藤忠熊英誠太清貞格利義繁芳重敬太孝一重松政英荒	也雄馨穗勝斌七基義助夫榮耶治一夫介雄門治耶雄雄二太耶清幸一助策收夫隆三義耶藏耶次行義壽耶吉
---	--	---	---------------------------------------	--	---------------------------------------	--	---	--	--	--	--	--	--	---	--	---	--	--	---

金拾八圓也

(自昭和四年一月至昭和六年六月)

堀江吉光

金拾壹圓六拾錢也

(自昭和五年十一月至昭和七年三月會費及入會金)

麻田宏博

金八圓貳拾錢也

(自昭和六年一月至昭和六年十二月會費及入會金)

片山

金七圓貳拾錢也

(自昭和六年一月至昭和六年十二月)

北川 水雄	南滿洲鐵道會社理學試驗所		
金七圓貳拾圓也	(自昭和五年七月至昭和六年六月)		
橋本 温乎 松井 武美	武内 武夫 黑崎 源一 大和 林八 後 藤 尙 出羽 善次 佐野 半兵衛	見 邊 良太 平 瀨 浩彦	佐藤 孫三
金七圓貳拾錢也	(自昭和四年七月至昭和五年六月)	佐藤 英一	
金六圓也	(自昭和五年九月至昭和六年六月)	清 通 胤	
金六圓六拾錢也	(自昭和五年八月至昭和六年六月)	三橋 錄三	
金五圓八拾錢也	(自昭和五年十一月至昭和六年六月會費及入會金)		原口 太吉
金五圓貳拾錢也	(自昭和五年十二月至昭和六年六月會費及入會金)		牛田 包美
金四圓八拾錢也	(自昭和五年十一月至昭和六年六月)	岡田 實	白土 四郎
金四圓六拾錢也	(自昭和六年一月至昭和六年六月會費及入會金)		
井原 信行 山崎 信三	小田 助男 和田 敏男 永山 巽 山之内 弘 廣瀨 鐵治	金子 吉雄	森本 瀧彌
金四圓貳拾錢也	(自昭和五年十二月至昭和六年六月)	大江 繁樹	田丸 善政
金參圓六拾錢也	(自昭和五年七月至昭和五年十二月)	大成 省三	茂木 吉治
金貳圓七拾錢也	(昭和六年二月より六月に至る)	石川 竹盛	

會誌改良に就て會告

豫め公告せし通り會誌は去一月號より下記の通りに改正致しました。夫れに就て會員諸彦の御所見承りて参考に供したいと思ひます。

1. 2 段組とし紙質を改めて寫眞圖版など從來のものに比して鮮明になつたと思ひます。
2. 索引が著者名引及題目名引となり著しく改善を加へました。
3. 特設公告拔萃及内外雜誌に著れた論文題目名拔記を載せる事にしました。以上之等は今後尙ほ一段と進みたいと思ふて居ります。

編輯